## 使用上の注意改訂のお知らせ

2017年8月

## 東和薬品株式会社

免疫抑制剤

免疫抑制剤

《タクロリムス錠》

# タクロリムス錠0.5mg「トーワ」 タクロリムス錠5mg「トーワ」 タクロリムス錠1mg「トーワ」 タクロリムス錠1.5mg「トーワ」 タクロリムス錠3mg「トーワ」

《タクロリムス錠》

このたび、標記製品の「使用上の注意」を改訂致しましたのでお知らせ申し上げます。 なお、改訂添付文書を封入した製品がお手元に届くまでには日数を要する場合がございますので、 今後のご使用に際しましては、下記内容にご留意くださいますようお願い申し上げます。

#### 1. 改訂内容

<0.5mg/1mg/1.5mg/3mgのみ>

改訂後(下線部改訂)	改訂前(点線部削除)	
【用法・用量に関連する使用上の注意】 12) 潰瘍性大腸炎では、 <u>原則、</u> 1日あたりの投与 量の上限を0.3mg/kgとし、特に次の点に注意 して用量を調節すること。	【用法・用量に関連する使用上の注意】 12) 潰瘍性大腸炎では、1日あたりの投与量の上限を0.3mg/kgとし、特に次の点に注意して用量を調節すること。	
7. 小児等への投与 2) 心移植、肺移植、膵移植、小腸移植、重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎及び潰瘍性大腸炎では小児等に対する安全性は確立していない。(心移植、肺移植、膵移植、小腸移植、重症筋無力症及び潰瘍性大腸炎では使用経験が少なく、関節リウマチ及びループス腎炎では使用経験がない)	7. 小児等への投与 2) 心移植、肺移植、膵移植、小腸移植、重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎及び潰瘍性大腸炎では小児等に対する安全性は確立していない。(心移植、肺移植、膵移植、小腸移植及び重症筋無力症では使用経験が少なく、関節リウマチ、ループス腎炎及び <u>潰瘍性大腸炎</u> では使用経験がない)	

<5mgのみ>

該当項目のみ記載

改訂後(下線部改訂)	改訂前
【用法・用量に関連する使用上の注意】 9) 潰瘍性大腸炎では、 <u>原則、</u> 1日あたりの投与量 の上限を0.3mg/kgとし、特に次の点に注意し て用量を調節すること。	【用法・用量に関連する使用上の注意】 9) 潰瘍性大腸炎では、1日あたりの投与量の上限 を0.3mg/kgとし、特に次の点に注意して用量 を調節すること。

該当項目のみ記載

改訂後(下線部改訂)	改訂前(点線部削除)
7. 小児等への投与 2) 心移植、肺移植、膵移植、小腸移植及び潰瘍性 大腸炎では小児等に対する安全性は確立してい ない。(使用経験が少ない)	7. 小児等への投与 2) 心移植、肺移植、膵移植、小腸移植及び潰瘍性大腸炎では小児等に対する安全性は確立していない。(心移植、肺移植、膵移植及び小腸移植では使用経験が少なく、潰瘍性大腸炎では使用経験がない)

## <共通>

該当項目のみ記載

改訂後(下線部改訂)			改訂前 (点線部削除)		
3. 相互作用	3. 相互作用				
2)併用注意(併用に注意すること)			2)併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗生物質	本剤の血中濃度が上	CYP3A4 で代謝	抗生物質	本剤の血中濃度が上	本剤は主とし
エリスロマイシ		される薬剤又		昇し、腎障害等の副作	て薬物代謝酵
ν	用が発現することがあ	は CYP3A4 の 阻		用が発現することがあ	素 CYP3A4 に て
ジョサマイシン	る。本剤血中濃度のモ	害作用を有す		る。本剤血中濃度のモ	代謝される。こ
クラリスロマイ	ニターを行い、必要に	る薬剤や飲食	クラリスロマイ		の酵素で代謝
シン	応じ減量・休薬等の処	<u>物</u> との併用に	シン	応じ減量・休薬等の処	される他の薬物
アゾール系抗真菌	置を行う。	より、本剤の代	アゾール系抗真菌	置を行う。	との併用によ
剤		謝が阻害され	剤		り、本剤の代謝
イトラコナゾー		る。	イトラコナゾー		が阻害され血
ル			ル		中濃度が上昇
フルコナゾール			フルコナゾール		する可能性が
ボリコナゾール			ボリコナゾール		<u>あ</u> る。
等			等		
カルシウム拮抗剤			カルシウム拮抗剤		
ニフェジピン			ニフェジピン		
ニルバジピン <sup>注2)</sup>			ニルバジピン注2)		
ニカルジピン			ニカルジピン		
ジルチアゼム			ジルチアゼム		
等			等		
HIVプロテアーゼ阻			HIVプロテアーゼ阻		
害剤			害剤		
リトナビル			リトナビル		
サキナビル ネルフィナビル			サキナビル ネルフィナビル		
その他の薬剤			その他の薬剤		
ブロモクリプチ			ブロモクリプチ		
ν					
ダナゾール			ダナゾール		
エチニルエスト			エチニルエスト		
ラジオール			ラジオール		
オメプラゾール			オメプラゾール		
ランソプラゾー			ランソプラゾー		
ル			ル		
トフィソパム			トフィソパム		
アミオダロン			アミオダロン		
飲食物			飲食物		
グレープフルー			グレープフルー		
ツジュース			ツジュース		

該当項目のみ記載

改訂後 (下線部改訂)		改訂前 (点線部削除)			
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序•危険因子
テラプレビル	テラプレビル750mg1日 3回8日間服用後、本剤 を併用したとき、本剤 のAUCが70倍に上昇し たとの報告がある。本 剤血中濃度のモニター を行い、必要に応じ減 量・休薬等の処置を行 う。	CYP3A4 で代謝       される薬剤又       はCYP3A4 の阻       害作用を有する薬剤や飲食物との併用により、本剤の代謝が阻害される。	テラプレビル	テラプレビル750mg1日 3回8日間服用後、本剤 を併用したとき、本剤 のAUCが70倍に上昇し たとの報告がある。本 剤血中濃度のモニター を行い、必要に応じ減 量・休薬等の処置を行 う。	本剤は主として薬物代謝酵素 CYP3A4 にて代謝される。この酵素で代謝される他の薬物との併用により、本剤の代謝が阻害され血中濃度が上昇する可能性がある。
<u>グラゾプレビル</u>	本剤の血中濃度が上 昇し、腎障害等の副作 用が発現することがあ る。本剤血中濃度のモ ニターを行い、必要に 応じ減量・休薬等の処 置を行う。	グラゾプレビル のCYP3A阻害作 用により、本剤 の代謝が阻害 される。		(記載なし)	
オムビタスビル・ パリタプレビル・ リトナビル	オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル (25 mg・150 mg・100mg)1日1回服用後、本剤を併用したとき、本剤のAUCが86倍に上昇したとの報告がある。 やむを得ない場合を除き併用は避けること。 やむを得ず併用する場合には、本剤の血中濃度のモニタリング及び投与量・投与間隔の調整を行うとともに、患者の状態を慎重に観察し、副作用発現に十分注意すること。	リトナビルの CYP3A4 阻 害 作 用によ <u>り、本剤</u> の代謝が阻害 <u>され</u> る。	オムビタスビル・ パリタプレビル・ リトナビル	オムビタスビル・パリ タプレビル・リトナビ ル (25 mg ・ 150 mg ・ 100mg) 1日1回服用後、 本剤を併用したとき、 本剤のAUCが86倍に上 昇したとの報告があ る。本剤血中濃度のモ ニターを行い、必要に 応じ減量・休薬等の処 置を行う。	リトナビルの CYP3A4 阻害作 用による。
注2) 併用により相互に作 する可能性がある。	察し、副作用発現に十 分注意すること。 大謝が阻害され、ニルバジビ	ンの血中濃度も上昇	注2)併用により相互に作する可能性がある。	    大謝が阻害され、ニルバジビ	『ンの血中濃度も上

### 4. 副作用

#### 1) 重大な副作用(頻度不明)

(1) <u>急性腎障害、ネフローゼ症候群:急性腎障害、</u>ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、頻回に臨床検査(クレアチニン、BUN、クレアチニンクリアランス、尿蛋白、尿中NAG、尿中 $\beta_2$ ミクログロブリン等)を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

#### 4. 副作用

#### 1) 重大な副作用(頻度不明)

(1) <u>急性腎不全、ネフローゼ症候群:急性腎不全、</u>ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、頻回に臨床検査(クレアチニン、BUN、クレアチニンクリアランス、尿蛋白、尿中NAG、尿中 $\beta_2$ ミクログロブリン等)を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量・休薬等の適切な処置を行うこと

該当項目のみ記載

#### 2. 改訂理由

#### 「用法・用量に関連する使用上の注意」「小児等への投与」の項(自主改訂)

タクロリムス水和物製剤の調査・試験結果に基づき、「用法・用量に関連する使用上の注意」「小児等への投与」の項を改訂し、注意喚起致しました。

#### 「相互作用 併用注意」の項(自主改訂)

相互作用相手薬剤と整合性をとるため、「相互作用 併用注意」の項に追記致しました。

#### 「副作用 重大な副作用」の項(自主改訂)

厚生労働省において添付文書で使用してきた副作用名「急性腎不全」について、最近の知見に基づき、「急性腎障害」に変更することとなり、記載整備致しました。

#### <参考>

医薬品·医療機器等安全性情報 No. 341

(http://www.pmda.go.jp/files/000216852.pdf)

今回の改訂内容につきましては、日本製薬団体連合会の医薬品安全対策情報 (DSU) No. 262 (2017年8月) に掲載される予定です。

また、改訂後の添付文書全文につきましては、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構のホームページ (http://www.pmda.go.jp) 並びに弊社ホームページの「医療関係者の皆様へ」のページ (http://www.towayakuhin.co.jp/forstaff) に掲載致します。



【製品情報お問い合わせ先】 学術部DIセンター **፴** 0120-108-932